




銀行名	群馬銀行
タイトル	海外販路拡大ニーズへのサポート
取組み内容	<p>1．動機（経緯）</p> <p>（1）自動車部品製造業者。品質に定評があり、大手メーカーからの受注が拡大基調だったものの、コストダウン要請が強く、販売単価が下落しており、収益性に課題を抱えていた。</p> <p>（2）国内でのコストダウン要請に対応し、かつ、日系メーカーの中国拠点へ部品を供給するため、平成24年9月に中国に現地法人を設立し、平成25年より現地生産を開始。</p> <p>（3）当初の中国進出支援は、メインバンクが中心に対応したが、当行は、同社に日系メーカーだけでなく、海外メーカーを含めた海外での販路拡大ニーズがあることを把握し、このサポートとして上海での商談会参加を紹介した。</p> <p>2．内容</p> <p>（1）当行紹介により、平成25年および平成26年に、上海での「日中ものづくり商談会」に出展。</p> <p>（2）商談会の成果 平成25年 欧州系メーカーの中国現法を含む海外2社との商談が成立。 平成26年 当行の紹介により、当行取引先の一部上場企業と商談交渉する機会を得て、具体的な引き合いなどの商談が進行中。</p> <p>（3）営業店、本部及び上海事務所が連携し、顧客への継続的なアプローチを行い、商談成約をサポートした。</p> <p>3．成果（効果）</p> <p>（1）同社は、海外販路拡大による売上高の増加や、中国工場の稼働率上昇による収益性改善を図ることができた。</p> <p>（2）同社は、新規販売先の開拓手法として、海外商談会の重要性を認識したことから、今後も海外商談会の出展を希望している。</p> <p>（3）当行は今後も、営業店・本部・海外拠点が一体となり、継続して海外販路拡大ニーズへのサポートに取り組み、顧客支援を継続していきたい。</p>  <p>（ものづくり商談会の会場の様子）</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	中小企業再生支援協議会を活用したD D Sによる企業支援
取組み内容	<p>1．動機（経緯）</p> <p>T社は当地の有力温泉地で30年以上営業する大型旅館で、当行の融資シェアは70%を超えるメイン先。</p> <p>バブル崩壊後温泉ブームが下火となり、平成4年をピークに宿泊客数、売上高ともに徐々に減少が続き、業績は長期に低迷していた。</p> <p>代表者が交替した10年前から本業の収益力はますますの水準まで改善したが、過剰債務を抱えており、設備の競争力を維持するための更新費用や改正耐震改修促進法に対応するための工事費用捻出に目途が立たない状況にあった。</p> <p>H25年11月当行が中小企業再生支援協議会（以下、支援協）へ案件持込みし、抜本的な金融支援を伴う事業再生策を検討することとなった。</p> <p>2．内容</p> <p>（1）支援協が委託した外部専門家による調査の結果、10億円を超える実質債務超過と工事費用は6億円を要する事が判明した。</p> <p>「経営改善計画の骨子」</p> <p>当行が単独で7億円のD D Sを実施、同時に長期リスクを行う。</p> <p>他行は合計2億円の超長期リスクと金利の引き下げを行う。</p> <p>支払利息の軽減と、経費削減により収益を改善し10年間で実質債務超過を解消する。</p> <p>毎期のキャッシュフローの積上げにより設備費用を捻出する。</p> <p>（2）D D Sの実施は融資シェアの圧倒的に高い当行のみとすることで他行の協力を得て、H27年2月全行同意により計画は成立した。</p> <p>3．成果（お客様にとっての効果）</p> <p>10年間の経営改善計画に設備計画を盛り込むことで、施設の競争力を維持するための更新投資と耐震化工事問題への対応が計画的に実施可能となった。</p> <p>資金繰り、設備投資に関する不安がなくなり、経営陣が本業のサービス改善や販売営業に専念することが可能となった。</p>

銀行名	群馬銀行																
タイトル	整理回収機構の企業再生スキームによる私的再生																
取組み内容	<p>1. 動機（経緯）</p> <p>当社は、昭和 31 年に建築資材の製造に業務転換し、その後、着実な業績を積み上げ、総合エクステリア企業として業務範囲を広げ、業界屈指の企業として基盤を固め順調に業容を拡大してきたが、外部環境の悪化もあり売上高は年々減少。平成 18 年には大幅赤字を計上したことから、当行主導で、経営コンサルタントを提案し経営改善に着手した。</p> <p>改善策は一定の効果を上げたが、自助努力で行った長期に渡るコスト削減は、従業員モチベーションの低下、設備の老朽化をもたらし、結果として製品の顧客満足度を低下させ、更なる業績悪化を引き起こす悪循環に陥った。</p> <p>平成 24 年に他行との取引状況や資金繰りを勘案し、当行から人材を派遣し更なる経営支援を企図。平成 25 年には過剰債務についても踏み込んだ抜本的な再建策検討も視野に新たなコンサルタント導入を提案した。事業・財務 D D を実施したところ、再建計画の策定にあたっては債権放棄による債務カットが必要と考えられ、整理回収機構（以下、R C C）に相談。コンサルタントが策定した再生計画を R C C が検証し、R C C の企業再生スキーム利用による事業再生計画を策定した。</p> <p>2. 計画案の骨子</p> <table border="1" data-bbox="475 1160 1473 1585"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画期間</td> <td>平成 26 年をゼロ期として平成 29 年までの 4 年間</td> </tr> <tr> <td>財務・事業改善の概要</td> <td>「顧客満足度の回復」「選択的コスト削減」「財務・事業構造の転換」を軸とした施策の実施。</td> </tr> <tr> <td>経営責任・保証責任</td> <td>会長、社長並びに他の取締役全員が退任。</td> </tr> <tr> <td>株主責任</td> <td>株式は 100%減資を行い、株主責任を明確化を図る。</td> </tr> <tr> <td>新経営体制</td> <td>親族であるが別会社の社長が新社長に就任・出資役員は当社から 2 名、当行から 1 名就任。</td> </tr> <tr> <td>数値目標</td> <td>平成 29 年：営業 2.6 億円、経常 1.9 億円 借入金残高 26 億円</td> </tr> <tr> <td>金融支援</td> <td>31 億円を債務免除(当行 9 億円)</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 成果（効果）</p> <p>(1) 平成 26 年 8 月、事業再生計画の全行同意成立。</p> <p>(2) 取引先や従業員の雇用を守ることができた。</p> <p>(3) 当社の窮境原因であった過剰債務が解消。新社長は業界経験が豊富であること、また強いリーダーシップの発揮により足元業績は改善基調で推移している。</p>	項目	内容	計画期間	平成 26 年をゼロ期として平成 29 年までの 4 年間	財務・事業改善の概要	「顧客満足度の回復」「選択的コスト削減」「財務・事業構造の転換」を軸とした施策の実施。	経営責任・保証責任	会長、社長並びに他の取締役全員が退任。	株主責任	株式は 100%減資を行い、株主責任を明確化を図る。	新経営体制	親族であるが別会社の社長が新社長に就任・出資役員は当社から 2 名、当行から 1 名就任。	数値目標	平成 29 年：営業 2.6 億円、経常 1.9 億円 借入金残高 26 億円	金融支援	31 億円を債務免除(当行 9 億円)
項目	内容																
計画期間	平成 26 年をゼロ期として平成 29 年までの 4 年間																
財務・事業改善の概要	「顧客満足度の回復」「選択的コスト削減」「財務・事業構造の転換」を軸とした施策の実施。																
経営責任・保証責任	会長、社長並びに他の取締役全員が退任。																
株主責任	株式は 100%減資を行い、株主責任を明確化を図る。																
新経営体制	親族であるが別会社の社長が新社長に就任・出資役員は当社から 2 名、当行から 1 名就任。																
数値目標	平成 29 年：営業 2.6 億円、経常 1.9 億円 借入金残高 26 億円																
金融支援	31 億円を債務免除(当行 9 億円)																

銀行名	群馬銀行
タイトル	“群馬発”ふるさと名物開発セミナーの開催
取組み内容	<p>1. 動機（経緯） 企業の創業・成長段階の新事業支援を目的とした「ぐんぎんビジネスサポート大賞」の第2ステップとして開催。群馬県の豊かな「食」「農」を活用した新商品開発を行う中小企業等を対象として、売れる商品づくりのポイント、補助金等支援施策の講演とともに、著名バイヤーの個別相談会を開催することによって、「食」「農」を活用した“群馬発”ふるさと名物の新開発・市場開拓支援を推進した。 地域資源支援策を展開する経済産業省関東経済産業局と連携して開催</p> <p>2. 内容 (1) 日時：平成27年2月20日（金）14：00～17：20 (2) 場所：群馬銀行研修所 2階 大研修室 (3) 参加：28事業者・団体（約50名）群馬県（蚕糸園芸課・工業振興課） (4) 次第：挨拶 群馬銀行 法人部副部長・コンサルティング室長 小林新平 関東経済産業局 産業部 経営支援課長 渡部季公子 氏 第1部：講演（14：00～15：30） 「売れる商品づくりのポイント」 (株)バイヤーズ・ガイド 代表取締役社長 永瀬正彦 氏 「ふるさと名物開発支援策について」 関東経済産業局 産業部 経営支援課係長 小池辰徳 氏 第2部：個別相談会（15：40～17：20 / 1社20分：13社） 相談員 (株)バイヤーズ・ガイド 代表取締役社長 永瀬正彦 氏 (株)京王百貨店 食品部マネジャー 野口喜弘 氏 (有)北 條 代表取締役 北條聡史 氏</p> <p>3. 成果（効果） (1) 当初定員20社を上回る28事業者・団体が参加するとともに、群馬県（蚕糸園芸課・工業振興課）の聴講もいただくなど、地方創生における官民一体となった「ふるさと名物開発」の一例となった。 (2) 参加者のアンケート結果では、「良い」「やや良い」の合計で、講演 88.5%、講演 84.7%、個別相談会 92.3%と、高評価を得た。 (3) セミナー終了後も、参加者からの要望「展示会等への出店支援」（53.8%）、「バイヤーの紹介」（46.2%）、「商品開発・市場開拓に関する専門家紹介・派遣」（38.5%）、「補助金申請に関するアドバイス」（23.1%）を「アグリフード フェスタ 2015 in 宇都宮」への出展、ものづくり補助金支援等に繋げフォローアップしている。</p>  



銀行名	群馬銀行
タイトル	医工連携推進への取組み
取組み内容	<p>1．動機（経緯） ものづくり企業を中心とした取引先企業の医療介護産業分野への進出を支援することで、地域経済の活性化ならびに地方創生に貢献していく。</p> <p>2．内容</p> <p>（1）現場見学会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日：平成 26 年 9 月 12 日 ・場所：医療法人M ・内容：医療施設の見学 企業と医療現場スタッフとの意見交換会、自社製品PR ・参加企業：10 社 18 名 平成 26 年 5 月 22 日、平成 26 年 11 月 14 日は介護施設で開催 <p>（2）「ぐんま医工連携活性化ファンド」の設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的：医療産業の振興に資するものづくり企業を中心とした中堅・中小企業の支援を図る。 ・設立日：平成 26 年 11 月 17 日 ・ファンド総額：8.6 億円（設立時は 6 億円） ・組合員：(株)群馬銀行、(株)東和銀行、桐生信用金庫、あかぎ信用組合、群馬県信用組合、(株)地域経済活性化支援機構、REVIC キャピタル(株)、ぐんぎんリース(株) (株)東和銀行、桐生信用金庫、あかぎ信用組合、群馬県信用組合は平成 27 年 4 月 30 日の出資 ・業務運営者：REVIC キャピタル(株)、ぐんぎんリース(株) <p>3．成果（効果）</p> <p>（1）現場見学会参加企業の製品開発の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師より、入院患者がベッドサイドでポータブルトイレを使用する際、転倒防止の補助具（掴まり棒）を必要とするニーズが出された。 ・現場見学会に参加した金属プレス加工業者 S は、当社の持つ金属製パイプの絞り加工技術を駆使し、掴まり易さ・デザイン性を兼ね備えた「起き上がりや移乗のサポートバー」の製作を開始。 ・B社は、本件を機に医療・介護分野製品への進出を検討中である。 <p>（2）「ぐんま医工連携活性化ファンド」の実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出資日：平成 27 年 6 月 12 日 ・出資先：C 社 ・事業内容：医療機器の開発、製造販売 ・出資金額：約 2 億円


S社による第一次試作品



第二次試作品



銀行名	群馬銀行
タイトル	常陽銀行・足利銀行との地域連携事業「フードフェスタ 2015 in 宇都宮」の開催
取組み内容	<p>1. 連携事業の目的 北関東自動車道の開通により群馬県、栃木県、茨城県の商流・物流が活性化するなか、3行が協力して取り組むことで経済圏域の拡大を後押しし、地域企業の販路拡大を図る。特に「食」や「観光」を軸に連携強化し、地域振興や地域経済の活性化へ繋げていくために開催した。</p> <p>2. 内容 (1) 日 時 平成 27 年 6 月 4 日(木) 10:00~16:00 (2) 場 所 マロニエプラザ(宇都宮市) (3) 主 催 群馬銀行・常陽銀行・足利銀行 (4) 出展者 320 先 (5) 来場者 約 3,200 名 (6) 予約商談 185 社/470 件(1 商談 20 分) (7) その他 3 県の観光ブース設置</p> <p>3. 成果(効果) (1) 出展者アンケートの主な結果 A. 出展者の 78.8%が「非常に満足・満足」であり、高い満足度となっている。 B. 商談件数は 1 社あたり平均すると 7.4 件の商談数である。 (2) バイヤーアンケートの主な結果 A. バイヤーの 86.2%が「非常に満足・満足」であり、高い満足度となっている。 B. 商談件数は 1 社あたり平均すると 5.8 件の商談数である。 (3) 開催日当日の成果については、出展者より「ビアガーデンで商品採用が決まった。」「群馬県内の小売店で納品が決まった。」など好評の声をいただいている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>(開会セレモニー)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>(会場内風景)</p> </div> </div>

銀行名	群馬銀行
タイトル	社会貢献活動への取組み
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 企業理念「地域社会の発展を常に考え行動すること、これが私たちの事業です」「よき企業人であるためによき市民であること、これが私たちの活動の基本です」に基づき、本業を通しての地域貢献のほか、ボランティア等の社会貢献活動や文化支援活動を行っている。</p> <p>【取組み内容】</p> <p>1．地域活動への参加 (1) 町内会活動、清掃活動、商工会議所活動、地域のお祭りへの参加 (2) 富岡製糸場清掃活動「リレー・フォー・クリーン」への参加</p> <p>2．スポーツ振興 (1) バレーボール部による国体予選参加とVリーグへの加盟（平成27年度） (2) 「ぐんぎん杯ママさんバレーボール大会」の開催 （平成25年～、これまで3回実施） (3) バレーボール部によるバレーボール教室の開催（実施累計337回）</p>  <p>(4) ぐんま県民マラソンへの協賛。行員がボランティアに多数参加 （平成26年度95名参加）</p> <p>3．芸術・文化の振興 (1) 群馬交響楽団への支援 賛助会員になるとともに、定期演奏会への協賛を実施 (2) 群馬の風土を記録した「新春特別番組」の制作。地元テレビ局で元日に放送。平成11年1月からこれまで17作を制作。平成27年は「上州のこども遊び」番組DVDを県教育委員会を通じて県内学校へ633枚寄贈。 (3) 富岡製糸場・絹産業遺産群保護活動応援ファンド「群馬の絹遺産」の取扱い。信託報酬の一部を「富岡製糸場と絹産業遺産群」保護のために寄付。</p> <p>【取組みの効果】 (1) 社会貢献活動への取組みを通じて、地域の一市民として地域社会における役割を果たしていく。 (2) 行員の社会貢献活動への意識が高まった。</p>

銀行名	群馬銀行
タイトル	環境問題への取組み
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 「群馬銀行環境方針」の制定（平成 21 年 5 月 1 日） 当行の環境への取組方針を明確化し、全行員の環境意識の向上を図るために制定。環境方針に基づく施策の実施や金融商品・サービスの提供を積極的に行っている。</p> <p><群馬銀行環境方針> 群馬銀行は、 環境と産業が両立する真に豊かな地域社会の実現を目指し、 ふるさとの自然環境を大切にしていきたいと考えています。 環境保全に積極的に取組み、 市民としての責任ある役割を果たしていきます。</p> <p>[環境行動基準]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．省資源、省エネルギー、リサイクル活動を推進し、環境への負荷の低減に努めます。 2．金融商品・サービスの提供などを通じて、環境保全に取組みお客さまを支援します。 3．役職員に対する環境教育を推進し、役職員の環境保全活動を支援します。 4．地域における環境保全活動を支援します。 <p>【取組み内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．当行の取組み <ol style="list-style-type: none"> (1) 商品・サービスを通じた取組み <ol style="list-style-type: none"> A．自然環境保護ファンド「尾瀬紀行」の取扱い 信託報酬の一部を公益財団法人尾瀬保護財団に寄付 （26 年度までの寄付累計約 9 百万円） B．環境配慮型私募債の取扱い。 環境に配慮した取組みを行う取引先の私募債発行手数料を優遇 C．省エネローン、マイカーローンの金利優遇 環境に配慮した住宅設備を購入する場合の住宅ローンやエコカーを購入する場合のマイカーローンの金利を優遇 (2) その他の取り組み <ol style="list-style-type: none"> A．一部店舗に太陽光発電設備を導入。また、本部等に省エネタイプの空調、照明機器を導入 B．「電気自動車用充電スタンド」1 台を平成 26 年 9 月に本店駐車場に設置 C．「クールビズ運動」の実施 D．「県有林整備パートナー事業実施協定」を群馬県と締結。 赤城山内の県有林 3.69ha を「ぐんぎんの森」と命名し、平成 24 年から整備。毎年、新入行員研修で間伐・枝打ち作業を行い、環境意識向上に努める。

2. 公益財団法人群馬銀行環境財団の取組み

平成7年に企業理念である「地域社会の発展を常に考えて行動すること」の実践活動の一環として公益財団法人群馬銀行環境財団を設立。快適で健全な環境の整備・保全を目指し、助成活動や啓発活動を実施。

(1) 助成事業

- A. 財団賞...群馬県内の環境保全に取組む団体個人を表彰し助成金(20万円)を交付。
- B. 教育賞...環境活動に取組む小中高校を表彰し、助成金を交付。

(2) 啓発事業

- A. 環境体験学習「環境探検隊」(中学生対象)の実施
平成8年から毎年2回実施。参加者累計210校、1,483名



- B. 環境体験学習「エコ・キッズ・キャンプ in 赤城山」(小学生対象)の実施
平成17年から毎年1回実施、これまで10回実施し参加者累計82校、266名
- C. 群馬県の実施する「環境にやさしい買物スタイル普及活動」に協賛し、特製マイバッグを作成し、群馬県内の本支店で無料配布を行う。

【取組みの効果】

- 1. 地域社会における環境の取組みへの支援や当行の環境問題への取組みを通じて、銀行としての社会的責任を果たしていく。
- 2. こうした取組みを通じて、行員の環境問題への意識の向上を図っていく。

銀行名	群馬銀行
タイトル	金融経済教育支援の実施
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 「よき企業人であるためによき市民であること、これが私たちの活動の基本です」という企業理念に基づき、地域の一市民として、地域社会の役割を果たすために行っている社会貢献活動の一環として「金融経済教育支援」に取り組む。</p> <p>【取組み内容】</p> <p>1. 「エコノミクス甲子園群馬大会」の主催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年より高校生を対象とした金融経済教育の場としてクイズ形式で金融の知識を学ぶ機会を提供している。 ・平成 26 年度 11 校 26 チーム（52 名）が参加  <p>2. 高校生の本店見学受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各高校で実施している「キャリア教育」の一環の職場見学の場として、本店の見学を受け入れている（平成 26 年度 4 校） ・本店営業部で窓口業務・出納業務などの見学、現金センター見学を行うとともに、銀行業務や金融の役割などをレクチャーしている。 <p>3. 小中学生の職場見学受け入れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の小中学生の職場体験の場として、支店の職場見学を受け入れている。 <p>4. 大学における出前講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬大学、群馬県立女子大学などへ出前講座を行い、金融の仕組みなどについて講義を行っている。 <p>【取組みの効果】</p> <p>1. 「エコノミクス甲子園」では、「金融について学ぶよい機会となった」など参加者から好評を得ており、金融経済教育の場の提供という目的を果たしている。</p> <p>2. 本店見学や職場見学では、普段銀行を訪れる機会の少ない生徒たちが、窓口や現金庫の様子を興味深く見学し、銀行業務を理解する機会の提供をしている。</p>